

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0371100488
法人名	有限会社 メープル
事業所名	グループホーム もみじ苑
所在地	岩手県釜石市大字平田第1地割1番地16 (電話) 0193-36-1130

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番地1号		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	1月27日

【情報提供票より】(20年 11月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 12 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算	8.0人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 (一部ロフト有) 造り		
	1階建ての	1階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	-	名	要介護2	2	名	
要介護3	6	名	要介護4	1	名	
要介護5	-	名	要支援2	-	名	
年齢	平均	83.4 歳	最低	74 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小泉医院、やえがし歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

三陸鉄道南リアス線平田駅から、おおよそ1km西側にあつて宅地開発や団地造成として開発された住宅地に立地されている。周囲には、田畑はほとんど見受けられず介護施設、公営アパート、幼稚園、企業の事業所などが立ち並んでいる。グループホームは、利用者が自由に行動し、歌や団欒などで笑い声に満ち溢れ、楽しい雰囲気にも包まれている。利用者にギターの得意な方がいて全体を盛り上げている姿は印象的である。理念に「一人ひとりが感情豊かに、ありのままに」を掲げ、職員が一丸となって利用者の思いを満足させるため取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念については職員全員が再検討され、ひと目で内容が読み取れる様に工夫されて、職員の努力が窺(ウカ)われた。地域とのつき合いは、推進委員会会議や職員が積極的に情報を得て、いろんなイベントに参加、交流されている。評価の意義については、改善計画シートをもとに月2回のスタッフ会議時、検討され対処している。かかりつけ医の支援については、基本的には家族に送迎を依頼し、必要に応じて職員が対処している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	改善計画シートを用意し、日常その都度記入し、全職員で自己評価を行い、改善点を明確にして月2回のスタッフ会議で、ひとつひとつ検討し改善に結びつくように努力して
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	今年度からは少しでもホームの内容を分かち合ってもらう為に、利用者の家族全員に案内を出し、出席を促している。主に、これまでの報告と今後の予定を話し、意見・要望を頂くパターンであるが、出席者の活発な発言を望む為に、当日は、いものこ会(野外炊飯等)や心肺蘇生法などのイベントを兼ねて行い、幅広い積極的な意見・要望などを頂くように努力されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族連絡シートを用意し月初めに配布し、意見・要望などを頂いたり、ホーム内では、家族への連絡ノートを用意し、その都度記入して変化があった際には、電話連絡や面接をしたりし、気軽に話せる雰囲気を作り、情報の共有に努めている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣は新興住宅に囲まれ、核家族化されているように利用者と同年代の方々が少ない場所であるが、大相撲のテレビ中継を見に来たり、また近くの畑で農業をされている方から野菜の差入を頂いたりして少しだけ交流が行われている。もう少し近隣との出入りを頻繁にしたいところだが、地理的な面で仕方のない部分があるようにも思われる。しかしながら、小学校の行事(への参加)、町内会の祭りやお花見、いものこ会や消防署の講話や得意先のスーパーなどでの買い物などの活動については活発に行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(理念) 喜…半分に、怒…理解、哀…半分に、楽…皆で(1人ひとりが感情豊かにありのままに……笑顔) 以前の文章を見やすくする為に、職員全員で長時間かけて真剣に見直しに取り組み、簡潔な一見してわかりやすい文章に改良した。尚、地域密着に関する内容は詳細文に謳われており、ホームの努力が強く窺(ウカ)えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、リビング、事務室に掲示されており、月2回の全体ミーティング、カンファレンスでは唱和まではしていないが、その都度全員で目を通して、実践に向けて取り組まれている様子である。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	推進委員会議や各職員からの情報をもとに平田地域、釜石地区内の行事に、積極的に見学、参加している。(いものこ会(野外炊飯等)、釜石まつり、小学校の運動会、学習発表会、消防署の公演、押し花づくり、その他)		当該事業所は新興住宅に囲まれ、核家族の家庭が多いので高齢者が近所にはあまり居ない様子であるので、ごく近隣の高齢者が、日常出入りすることは少ない感じである。それでも大相撲の実況時に時々テレビを見に来る方や、野菜収穫時に、畑から差し入れする方もいる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善計画シートを用意し、日常その都度記入し、自己評価時に職員全員で検討している。また、外部評価に対しても職員全員で月2回のスタッフ会議で話し合い、改善シートをもとに取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は4回開かれたが、参加者の見直しを行い、昨年までは家族会から1人だけだったが、今年度からは9名の出席を促しており、全員で約17名に案内を出している。		ホームの内容を良く知ってもらい、次回にもっと意見、感想なども頂く為にもその都度心肺蘇生法の講習会や、いものこ会(野外炊飯等)などを行い、活発な会議になるように努力している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村においても、「苑だより」を配布し、2カ月に一度は包括支援センターにも、事務的なことや情報のやりとりの為に訪問したり、またセンターの方たちは災害状況の安否や情報の連絡などにホームを訪問されている。		分からない事や、困ったこと等も、その都度相談にも行ったりして、常にコミュニケーションを保っている。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族連絡ノートを用意され、その都度記入され変化があった際には、電話報告したり、面会時に近況報告している。又、月初めには「苑だより」と、利用者一人ひとりの近況報告書も送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度随時家族会を行い、また家族には月初めに家族からの連絡シートを配ったり、来苑時に意見を聞いたり、気軽に何でも話せる雰囲気です。情報の共有に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員が入った際には、すぐ直接業務に関わらず、見学や補助的なことをさせて慣れた頃に通常業務に関わる様にしている。また、(職員が)2班に分かれて温泉旅行したり、忘年会をしたりして、ストレスを解消させることへも気配りしている。現在、女性職員のみで運営されており、ここ一年間は退職者はなく安定し、明るく、楽しく運営している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	栄養指導、調理実習、介護福祉士実技講習、認知症、その他の基礎講習に交替で受講させ業務に支障のない様に配慮されている。		受講した職員は、各々テキスト、パンフレットは自分で保管しているが、事務局(事業所)にも資料をファイルしておくこと等も、今後のケアの参考や研修の成果を共有することにもなるので望ましいことである。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム定例会や勉強会には参加している。最近では、9月に消防署が来て、災害についての講話をしたり、今後については、権利擁護についての交換勉強会を計画し、サービスの質の向上に向けて努力している。		他ホームとの相互交流は、今後のサービスの質の向上には欠かせないことである。更に、積極的に交流されることを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に、ホームを見学してもらうことから始め、更に家族と相談し必要に応じて出向いて説明することもあり、安心して納得された上で入居して頂くように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方でギターの得意な方がおり、その方を中心に、常に歌声がある非常に明るく楽しいホームである。編物をしたり和裁をしたり、習字を書いたり、調理をしたり、職員もともに楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気づき出来事ノートがあり、その都度職員が記入し、利用者担当の職員が対応している。また会話の中から発する言葉を受け止め、希望や意向を引き出すようにしていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	もみじ日誌、給食日誌、ケース日誌を用意してきめ細やかに職員が記入し、家族、本人と話し合い計画を作成している。万が一事故があった際には、家族に連絡しアドバイスなども頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは3ヶ月に一度行っているが、精神的な面(の変更)が多く、職員が記録している利用者の状態変化や家族、本人の要望に応じて見直しを行なっている。なお、状態が変化した際には、期間前でも臨機応変に検討見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院、送迎など必要な支援は柔軟に対応している。また、ショートステイの認可は受けているが、これまでのところ、利用はされていない。送迎の際には少額であるが、費用を頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昨年までは殆どかかりつけ医にはスタッフが同行したが、今年からは、基本的には家族が同伴することとしている。必要に応じて職員が同行し、健康状態の報告や相談をしている。そのことは家族と医師を交えて話し合い、方針を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針として、重度者や終末期の人はサービスの対象にしないことを利用時に説明されている。従って、重度期になってきたら、家族と医師を交えて話し合い、今後の方針を共有することとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ会議やケース会議時に職員の意識向上を図っている。日常の対応も、職員は時には友人のように、時には先輩として話しかけたり、柔軟な対応を行っている。非常におだやかな明るい利用者ばかりで、若い職員達も楽しそうに見える、まさに家族同様に時には祖母と孫のように窺(うかが)えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者が以前買物をしてきた馴染みのスーパーで買い物をしてもらう様に気配りしたり、1人ひとりの状態や思いに配慮しながら、柔軟に対応している。出来るだけ散歩・イベントなどの外出・買い物などは、都合の良い方に限り、家族に協力していただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食日誌も用意され、利用者が手伝ったことなど毎日記入されてある。また家庭連絡シートには手伝いの状況を写真にとって掲載し、利用者の様子が手にとるように分かるよう配慮されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴だが、本人の希望を聞いて、臨機応変に対応されている様子である。時には順番争いがあるので、食卓のテーブルごとに当番制にして、入浴して頂いている。入浴時間について基本的には13時30分～17時までとしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ギター、編物、裾上げ、習字、軽い農作業など、各々楽しんでいる。特にギターを得意とする方を中心に、朝から晩まで歌声がたえない素晴らしいホームである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	遊覧船「浜ゆり」に乗船したり、民謡大会に行ったり、孫の結婚式に参加して頂いたり、お花見に出かけたりしている。特に市の高齢者無料サービスを利用し、広範囲に外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないで、チャイムで対応している。居室入り口には鍵はついていない。特に出たがる方はいない様子であるが、安全面には注意して、自由な暮らしを支えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	推進会議に消防署からも出席していただき、また広報も配布しているので、コミュニケーションは良く取れている。年2回の避難訓練や地震についての講話や、平田地区の消防団も年2回見守りに来苑してくれている。非常食についても、一週間分は確保してあった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年2回、市内の介護施設の栄養士に指導を受けており、毎日の食事量、水分量も記録されていた。また職員も調理についての研修会に交代で参加している。特に血糖値の高い方はいないが、更に検討して、栄養バランスと水分摂取量の少ない利用者への提供方法を工夫され、万全なホームにされることを期待したい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けや家具の配置などは利用者と一緒に考えて、自分の家だと言う意識を高めてもらえるような工夫をしている。住宅街であるので、外の景色等から四季折々の季節感を一層意識的に取り入れる事に力を入れれば、より明るく楽しい雰囲気のあるホームとなることと思われる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や楽器、仏壇などを持ってきており、それに家族の写真や本人の作品、小物など飾り、利用者の居心地の良さに配慮している。家族とホームのコミュニケーションが、大変良くとれており利用者の幸せを強く感じられた。		